

水稲

近年、暖冬の影響から越冬するスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)が多く、管内の一部地域でイネの被害が見受けられます。今回は、越冬するスクミリンゴガイを減らし、春以降の被害軽減に向けた防除ポイントを紹介します。

冬期の耕うん

越冬期のロータリー耕うんによりスクミリンゴガイを物理的に破壊するとともに寒風にさらす。



《防除ポイント》

- 破碎効果が高めるために、土壌の水分が少なく田面が硬いときに耕うんする。
- 耕うんピッチを6mm程度、低速0.2〜0.6km/h程度に落として土壌を細かく砕くように作業することで、殻を破壊する効果が高まる。
- 多くの貝は深さ6cm以内の土中で越冬するため、耕うんの深度は10cm程度を目標とする。
- 厳寒期(1月〜2月)に実施することで土中の貝を掘り起こし、寒風にさらすことで貝の致死率が高まる。

《注意点》

- トラクターで次のほ場に移動する時は、貝を持ち込むのを防ぐために爪やアタッチメントを洗浄する。

水路の泥上げ

越冬個体が水系を介して地域全体にまん延しないよう、水路内に堆積した泥の掘り上げや、雑草の除去を地域全体で行う。

《防除ポイント》

- スクミリンゴガイは、水路内に堆積した泥のなかに潜って越冬するため、泥上げを行うことで寒風にさらされ、殺貝できる。
- 泥上げは越冬場所をなくすこと、また雑草も取り除くことで翌年の餌をなくすことにつながる。
- 地区全体で実施すると効果が高まる。

《注意点》

- 取り除いた土は、ほ場へ持ち込まない。



野菜

タマネギの定植が終わわり、順調に初期生育が進んでいる時期であると思います。これから、春先にかけて、様々な病気が発生する可能性があります。予防対策が必要です。特に近年は温暖化の影響もあり、西日本を中心にべと病が多発しているため注意が必要です。

発病原因



土壌感染で発病し、感染源となり他の株に感染します。気温10〜20℃で雨が多いと多発します。また、4月までに感染している株があれば周囲の株へ2次感染し、まん延しますので対策が必要です。

対策

- 排水対策を行い、発病した株は抜き取り処分する。
- 農薬防除
 - 発病初期まで：ダコニール1000 (予防剤)
 - 発病初期以降：ベトファイター顆粒水和剤 (予防・治療剤)
- ※薬剤効果が高めるために必ず展着剤(グラミンS等)を併用してください。
- ※農薬の使用前にはラベルをよく読み、使用時期、施薬量を必ず守りましょう。
- ※詳しくは、各営農経済センターまでご相談ください。